

イノベーション創出に向けた
産業クラスター・プロジェクトに関する先進事例調査
報告書

平成27年8月

あいち産業科学技術総合センター

はじめに

本調査は、愛知県の試験研究機関であり、産学行政連携の研究プロジェクト推進機関である「あいち産業科学技術総合センター」（以下、「センター」という。）のアクションプランを検討するに当たり下記項目について「産業クラスター・プロジェクト」の先進事例を調査し、施策の効果、成功要因、課題などを把握するためにアンケート調査を実施し結果をまとめたものです。

- (1) 地域イノベーションクラスターの創成について
- (2) オープンイノベーションシステムの構築について
- (3) イノベーション・コア人材の確保・育成について

今回の回答数は皆様の御協力の御陰で 54 件に達し、回答率 60%を超える回答をいただくことが出来ました。改めて皆様へお礼を申し上げます。

結果の概要といたしましては、事業が終了した後に成果を地域に移転するための対策が実施されないなど成果の活用が十分ではなく、また事業のために構築した人的ネットワークが事業終了後に失われてしまったケースもみられ、事業後のフォローアップの重要性が明らかとなりました。

また、イノベーション創出するには資金、人、ネットワークの重要性があらためて認識されました。

さらに、事業を実施するためには、事業を推し進める人材の他に、その人材の後ろに優秀な人材（強固な事務局機能の存在など）が必要であるとの結果も得られました。

本調査の結果については、個別の回答、内容を機関の名称が分からない範囲で整理しております。そのため、一部、回答を省略しておりますのでご了承ください。

また、各設問ごとの回答結果については、簡単な分析を加えたコメントを記載しておりますので、参考としてください。

これらの結果は、あいち産業科学技術総合センターのアクションプランへ反映させてまいります。全国で展開するイノベーション創出に向けた取組に少しでも参考になれば幸いです。

最後になりますが、ご回答をいただきました各機関ご担当者様にもう一度心からの感謝とお礼を申し上げます。また、皆様方からの貴重なご助言・ご指導を今後もたまわりますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

平成27年8月

あいち産業科学技術総合センター
所長 山本昌治

目次

はじめに	2
目次	3
調査の概要	4
結果	5
【問1】機関名、連絡担当者 ——>個別の情報のため記載省略	5
【問2】貴機関で実施した産業クラスター・プロジェクトの事業概要(下記項目)について	5
(1)事業名 ——>個別の情報のため記載省略	5
(2)クラスターを形成する(した)分野	6
(3)事業期間	7
(4)事業費	8
(5)参加機関	9
【問3】プロジェクト・計画における、他のプロジェクト・計画にない特徴 ——>個別の情報のため記載省略	9
【問4】プロジェクトの主とする目的	10
【問6】問5で得られた成果について、成功した要因	12
【問7】問5の評価項目・目標について、上手くいかなかった問題点・課題	13
【問8】事業の実施における公設試験研究機関の関与	14
【問9】今後の産業クラスター・プロジェクトの展開について	15
【問10】オープンイノベーションに関する取組の実施について、連携の種類	16
【問11】オープンイノベーションシステムの構築により得られた成果	17
【問12】オープンイノベーションに関する取組の成果の成功した要因	18
【問13】オープンイノベーションに関する取組で上手くいかなかった問題点・課題	19
【問14】今後のオープンイノベーションに関する展開	20
【問15】イノベーション創出の人材の確保、育成に向けた取組の成果	21
【問16】人材の確保・育成の取組で得られた成果の成功した要因	22
【問17】人材の確保・育成の取組で上手くいかなかった問題点・課題	23
【問18】人材の確保・育成の取組の今後の展開	24
【参考資料】アンケート調査票	25
あとがき	35

調査の概要

- 調査の目的 あいち産業科学技術総合センターのアクションプランを検討するに当たり「産業クラスター・プロジェクト」の先進事例を調査し、施策の効果、成功要因、課題などを把握することを目的とする。
- 調査時期 平成 27 年 5 月から 6 月
- 調査項目 地域イノベーションクラスターの創成、オープンイノベーションシステムの構築、イノベーション・コア人材の確保・育成等の施策の効果、成功要因、課題など、
- 調査対象 産業クラスター・知的クラスター・地域イノベーションなどのプロジェクトの推進機関・拠点機関 89 事業の事務局
- 調査方法 調査票の郵送によるアンケート調査方式
- 回答事業数 54 事業
- 回答率 60.7%

(注)産業クラスター・知的クラスター・地域イノベーションなどのプロジェクトの推進機関・拠点機関 89 事業の事務局へ調査票を送付しているが、事業が次の事業に継続している場合は新しい事業の事務局へ送付しています。

また、分野が異なる事業を複数実施している場合はそれぞれの事業について御回答をいただきました。

結果

【問1】機関名、連絡担当者 ——> 個別の情報のため記載省略

【問2】貴機関で実施した産業クラスター・プロジェクトの事業概要(下記項目)について

(1)事業名 ——> 個別の情報のため記載省略

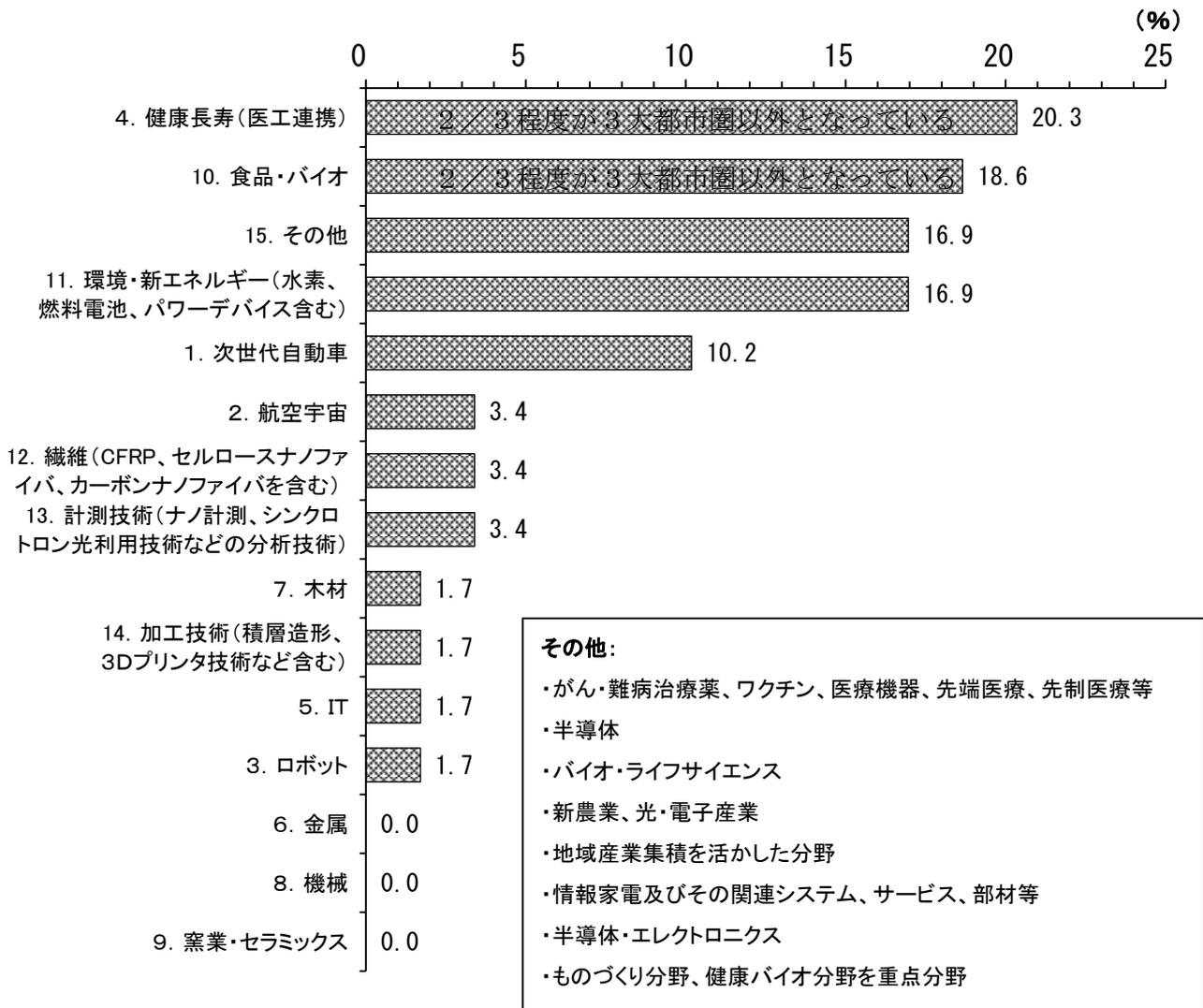
事業名	
地域イノベーション戦略推進地域	34 事業
地域イノベーション戦略支援プログラム	13 事業
地域イノベーションクラスタープログラム	10 事業
知的クラスター創成事業(Ⅱ期)	1 事業
知的クラスター創成事業 第Ⅰ期実施地域	3 事業
産業クラスター	28 事業
依頼合計	89 事業

返信数	54 事業	60.7 %
うち回答不能	7 事業	7.9 %
未回答	35 事業	39.3 %

本調査の有効回答数は 54 事業で有効回答率は 60.7%と 6 割を超える結果となった。

このうち後継事業などを利用して、事業が何らかの形で継続している事業については、回答を得られたが、事業が終了している場合には、回答不能状態となっているものもあった。

【問2】貴機関で実施した産業クラスター・プロジェクトの事業概要（下記項目）について
 (2) クラスターを形成する（した）分野は次のうちどれが一番近いと思いますか。



クラスターを形成する（した）分野について質問したところ、「健康長寿（医工連携）」が20.3%と最も多くなっている。次いで「食品・バイオ」が18.6%と多くなっている。食品・バイオと回答した中では、ほぼ全てがバイオ関係の事業となっている特徴が見られた。「健康長寿（医工連携）」と「食品・バイオ」のそれぞれ2/3が3大都市圏以外の事業となっている。これは全回答の地域の割合と同じであり、健康やバイオについては、どこの地域にも共通するテーマであると考えられることから、広くクラスター形成の分野として採用されてきたものと考えられる。

次いで、環境・エネルギーの分野や次世代自動車、航空宇宙、また関連するCFRPなどの高機能材料の分野が多くなっており、もともと当該分野で発展している地域において更に新しい産業の創出を視野に入れたクラスター形成が進められている結果が見られた。

※「2/3が3大都市圏以外」について、
 3大都市圏は、東京圏（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）、中京圏（愛知県、三重県、岐阜県）、大阪圏（大阪府、兵庫県、京都府）とした。当該地域以外の割合が、全回答の2/3の割合を占める結果となった。

【問2】貴機関で実施した産業クラスター・プロジェクトの事業概要(下記項目)について

(3)事業期間

		終了年度															開始年度計
		15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	
開始年度	H14				2			2			1	1					6
	H15																
	H16						2										2
	H17																
	H18								1								1
	H19								1	1							2
	H20								2		2			1			5
	H21									2		4					6
	H22										2						2
	H23													10			10
	H24														7		7
	H25															2	2

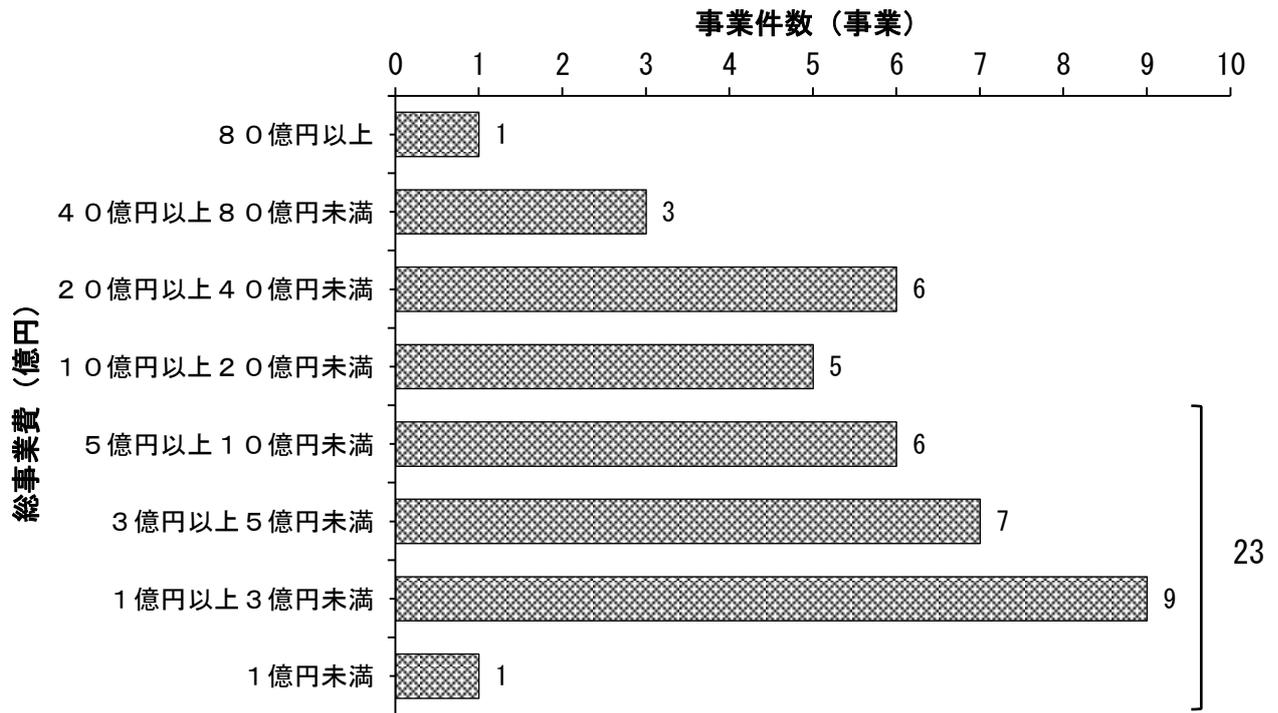
		事業期間(年)															
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
開始年度	H14				2			2			1	1					
	H15																
	H16				2												
	H17																
	H18				1												
	H19			1	1												
	H20		2		2			1									
	H21		2		4												
	H22		2														
	H23				10												
	H24				7												
	H25				2												
事業期間計			6	1	31			3			1	1					

事業期間のうち開始年度について質問したところ直近の5年間(平成21年度から平成25年度まで)が全体の62.8%と約2/3を占め、産業クラスター・プロジェクトが近年活発化している結果が見られた。特に平成23年度、24年度の開始事業が多かった。

また、事業の期間についても5年間で72%と約3/4を占め、多くの事業が5カ年を単位に構築されていることが明らかとなった。

【問2】貴機関で実施した産業クラスター・プロジェクトの事業概要(下記項目)について

(4)事業費



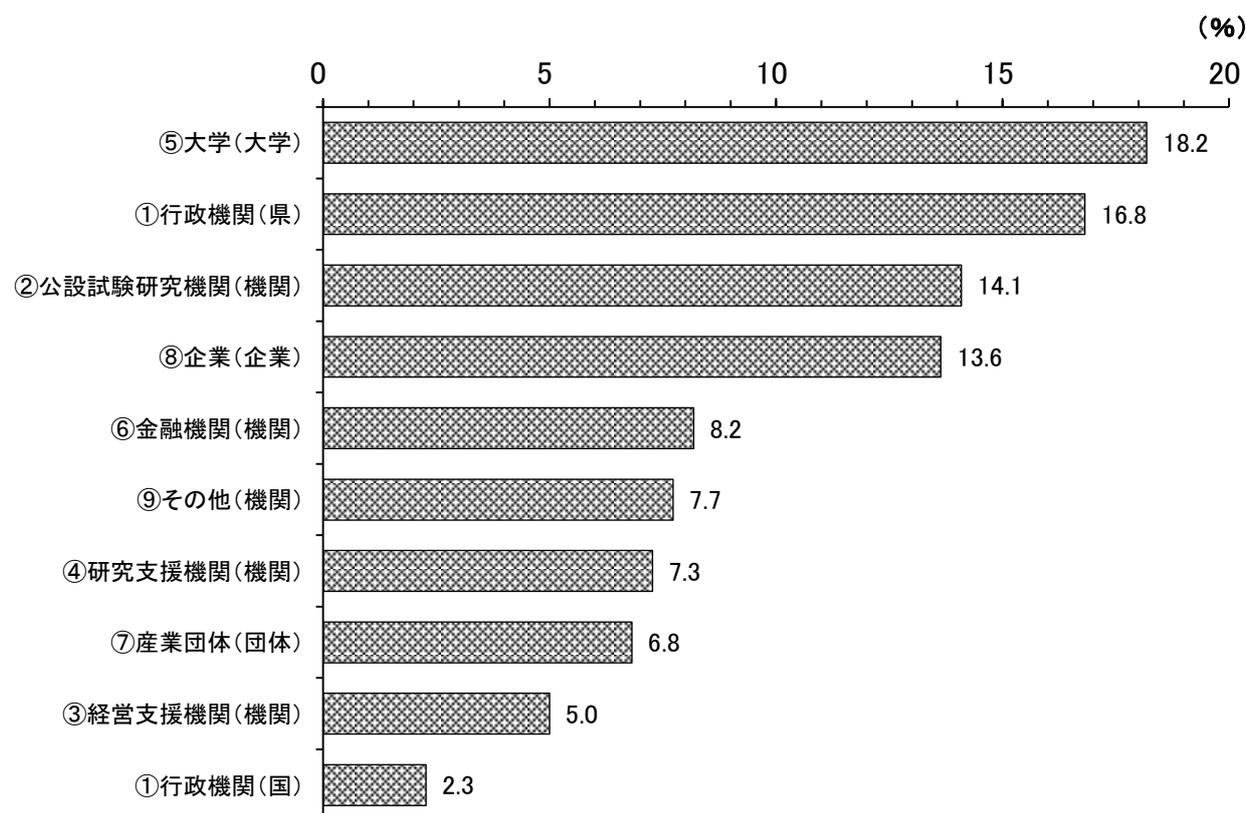
事業規模について、全体計画の事業費について質問したところ、10億円未満が60.5%を占め最も多い割合となった。

続いて20億円以上40億円未満が多くの割合を占めた。

80億円以上も1件あったが、これはハード整備に多くのウェイトが占められていることが背景となっているものと考えられる。

【問2】貴機関で実施した産業クラスター・プロジェクトの事業概要(下記項目)について

(5)参加機関

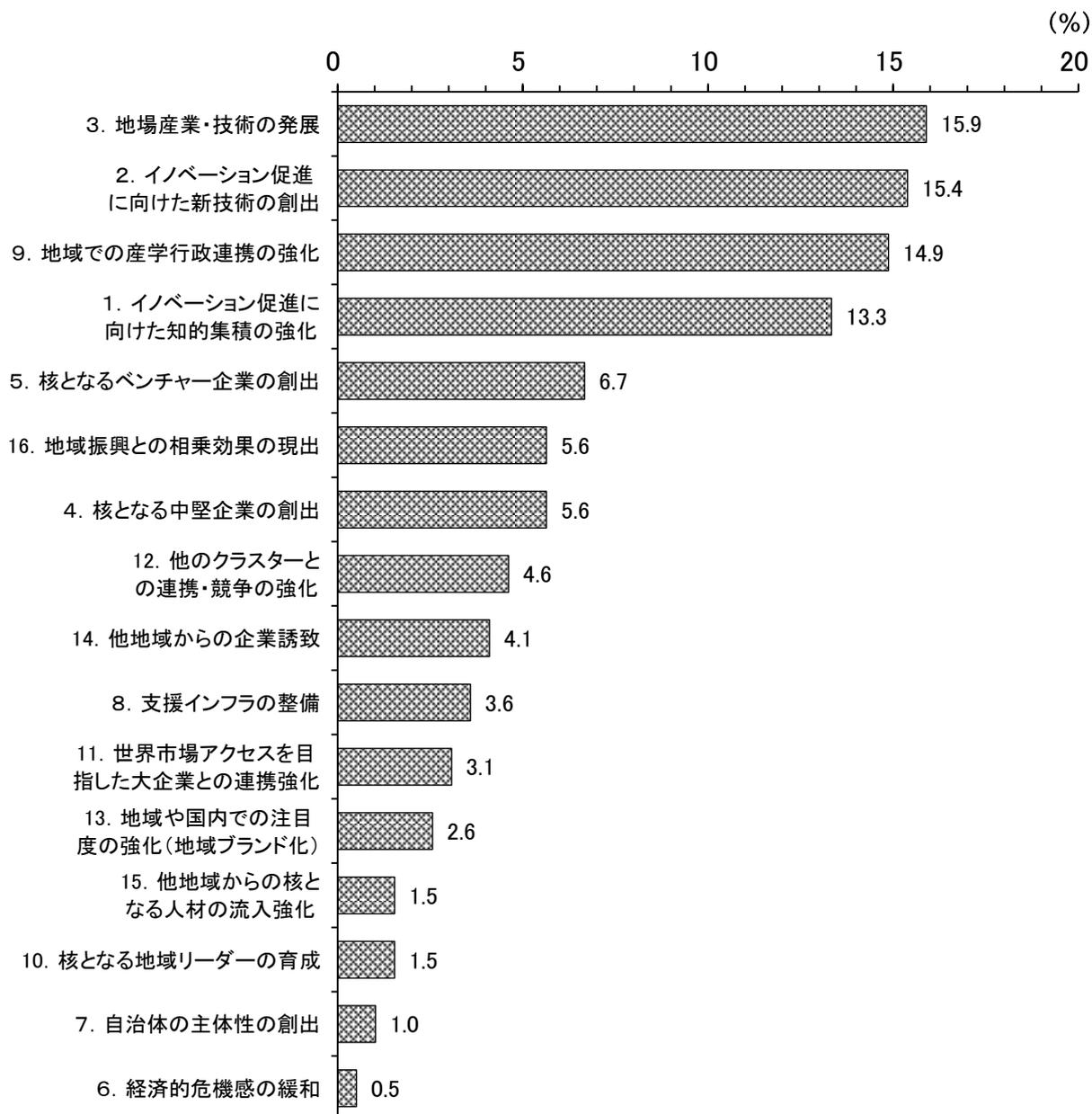


クラスターへの参加機関について質問したところ、「大学」が最も多い18.2%を占め、次いで、「行政機関(県)」の16.8%、「公的試験研究機関」の14.1%、「企業」の13.6%となっている。このことから、クラスター形成は、主に産学行政連携によるプロジェクトとして形成されているものと考えられる。また、参加する行政機関としては、都道府県が中心となっているものと考えられる。

行政機関(国)の関与が最も低い結果となった。補助金など事業資金の提供は多く見られるが、直接運営等に関与している実態はあまりないことが明らかとなった。

【問3】貴プロジェクト・計画において、他のプロジェクト・計画にない特徴と思われることについてお教えてください ——> 個別の情報のため記載省略

【問4】貴プロジェクトで主とする目的はどれですか。該当する番号に○を付けてください(複数選択可)。



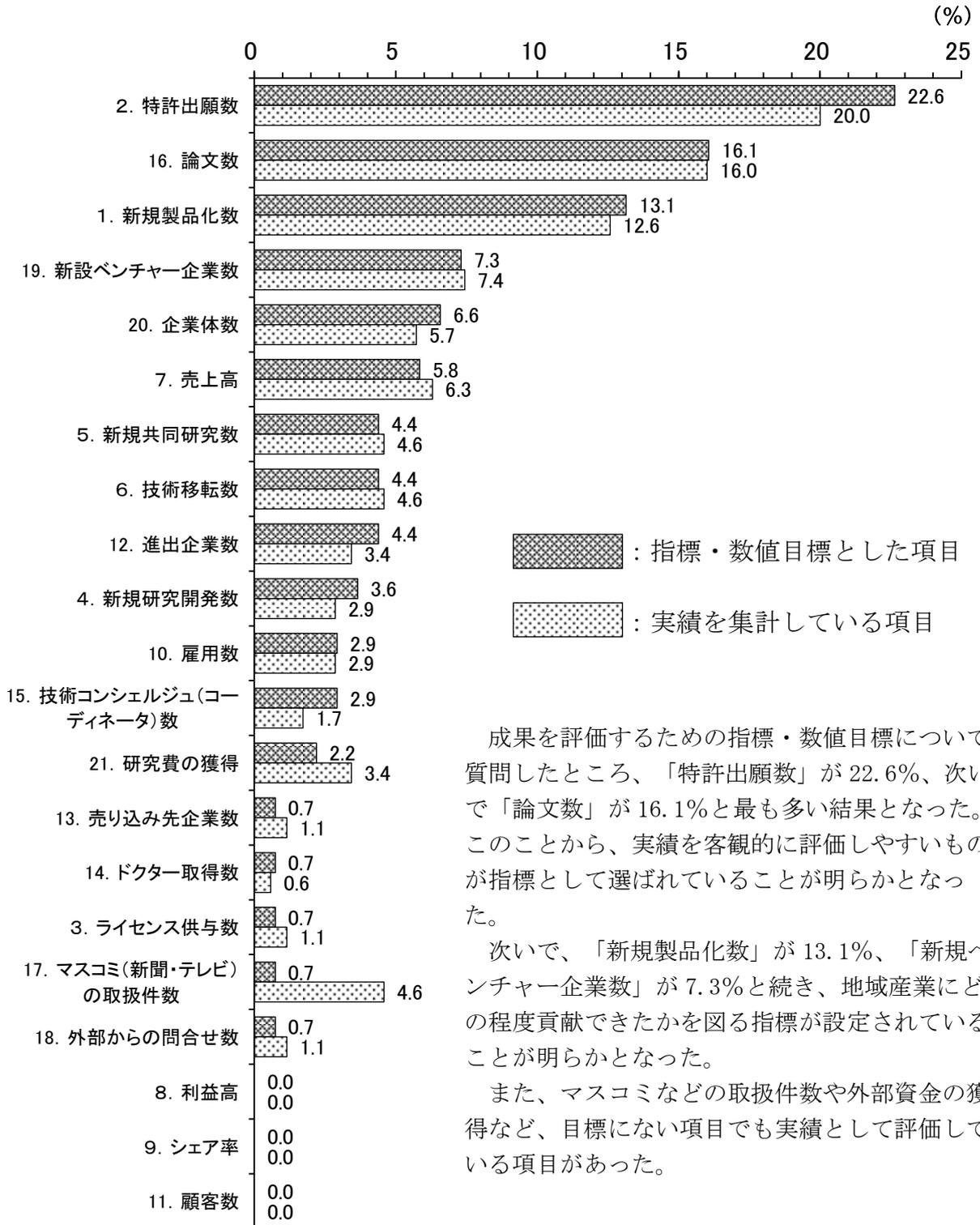
クラスター形成・プロジェクトの目的について質問したところ、「地場産業・技術の発展」が15.9%、次いで「イノベーション促進に向けた新技術の創出」が15.4%と最も多い結果となった。このことから、地域産業の向上や新技術の創出が最も重視されているものと考えられる。

また、「地域での産学行政連携の強化」が14.9%、「イノベーション促進に向けた知的集積の強化」が13.3%と続いている。このことから、各地域において産学行政連携により、クラスター形成やプロジェクトの展開には、イノベーション創出が重視されていることが明らかとなった。

なお、データに記載されていませんが、地域性による差異は見当たらなかった。

【問5】クラスターを創成することにより得られた成果の現状について、成果を評価するための指標・数値目標及び実績についてお教えてください。

(該当する番号に○を付け(複数選択可)、その目標値と、実績があるものについてはその実績を分かる範囲で記入してください。) -----> 指標・数値目標と実績を集計している項目割合の集計

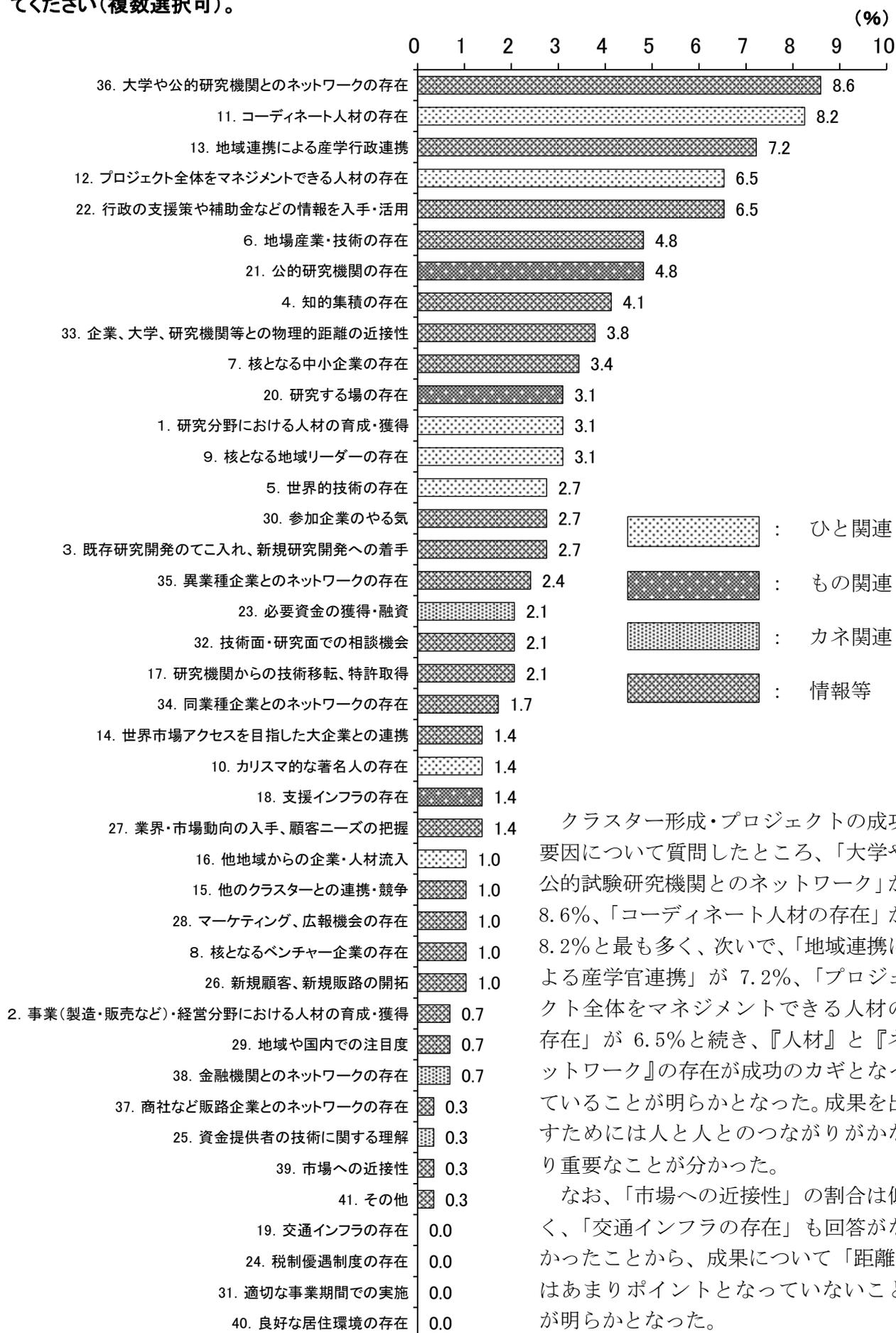


成果を評価するための指標・数値目標について質問したところ、「特許出願数」が22.6%、次いで「論文数」が16.1%と最も多い結果となった。このことから、実績を客観的に評価しやすいものが指標として選ばれていることが明らかとなった。

次いで、「新規製品化数」が13.1%、「新規ベンチャー企業数」が7.3%と続き、地域産業にどの程度貢献できたかを図る指標が設定されていることが明らかとなった。

また、マスコミなどの取扱件数や外部資金の獲得など、目標にない項目でも実績として評価している項目があった。

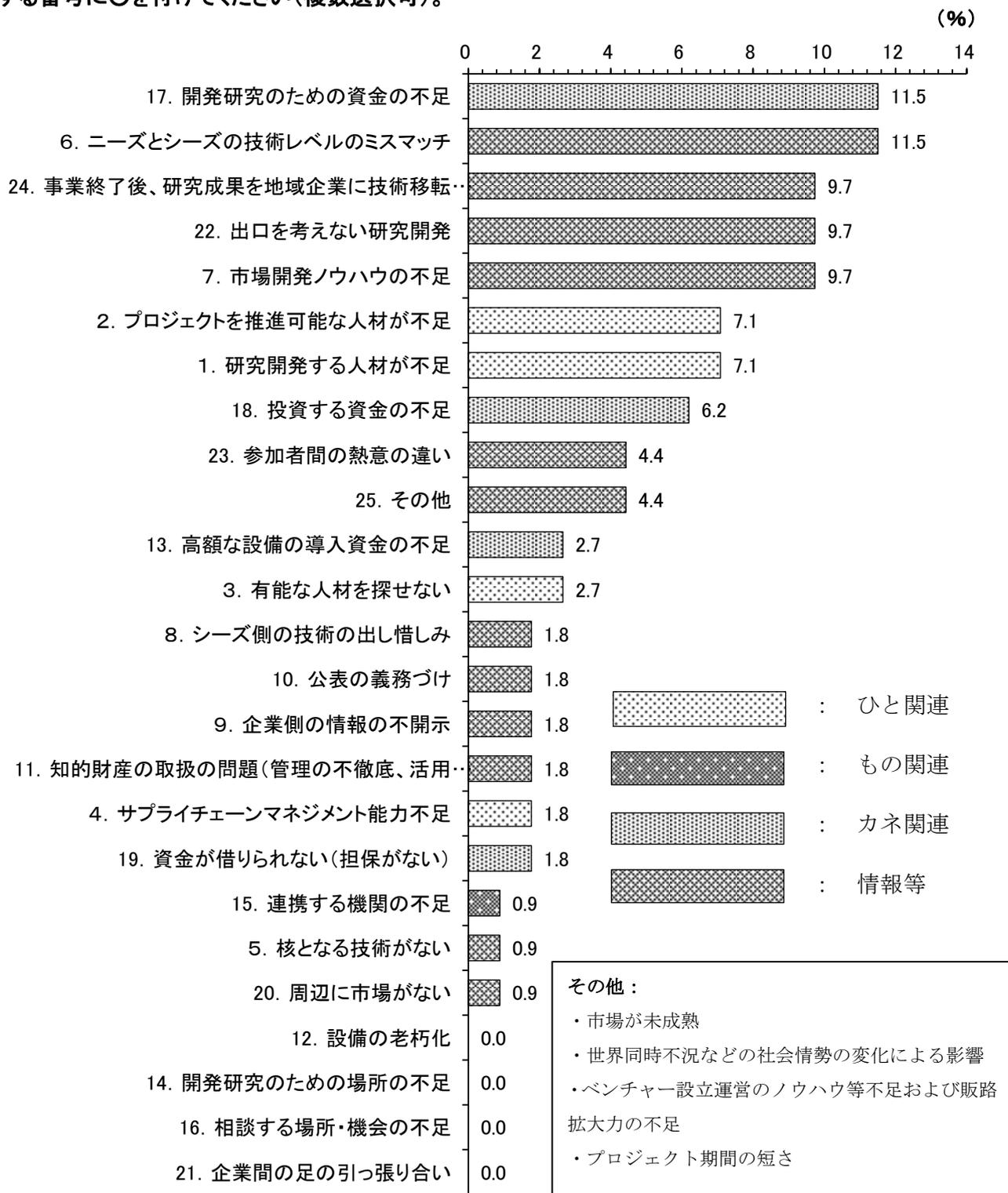
【問6】問5で得られた成果について、成功した要因は何だと思われますか。該当する番号に○を付けてください(複数選択可)。



クラスター形成・プロジェクトの成功要因について質問したところ、「大学や公的試験研究機関とのネットワーク」が8.6%、「コーディネーター人材の存在」が8.2%と最も多く、次いで、「地域連携による産学官連携」が7.2%、「プロジェクト全体をマネジメントできる人材の存在」が6.5%と続き、『人材』と『ネットワーク』の存在が成功のカギとなっていることが明らかとなった。成果を出すためには人と人とのつながりがかなり重要なことが分かった。

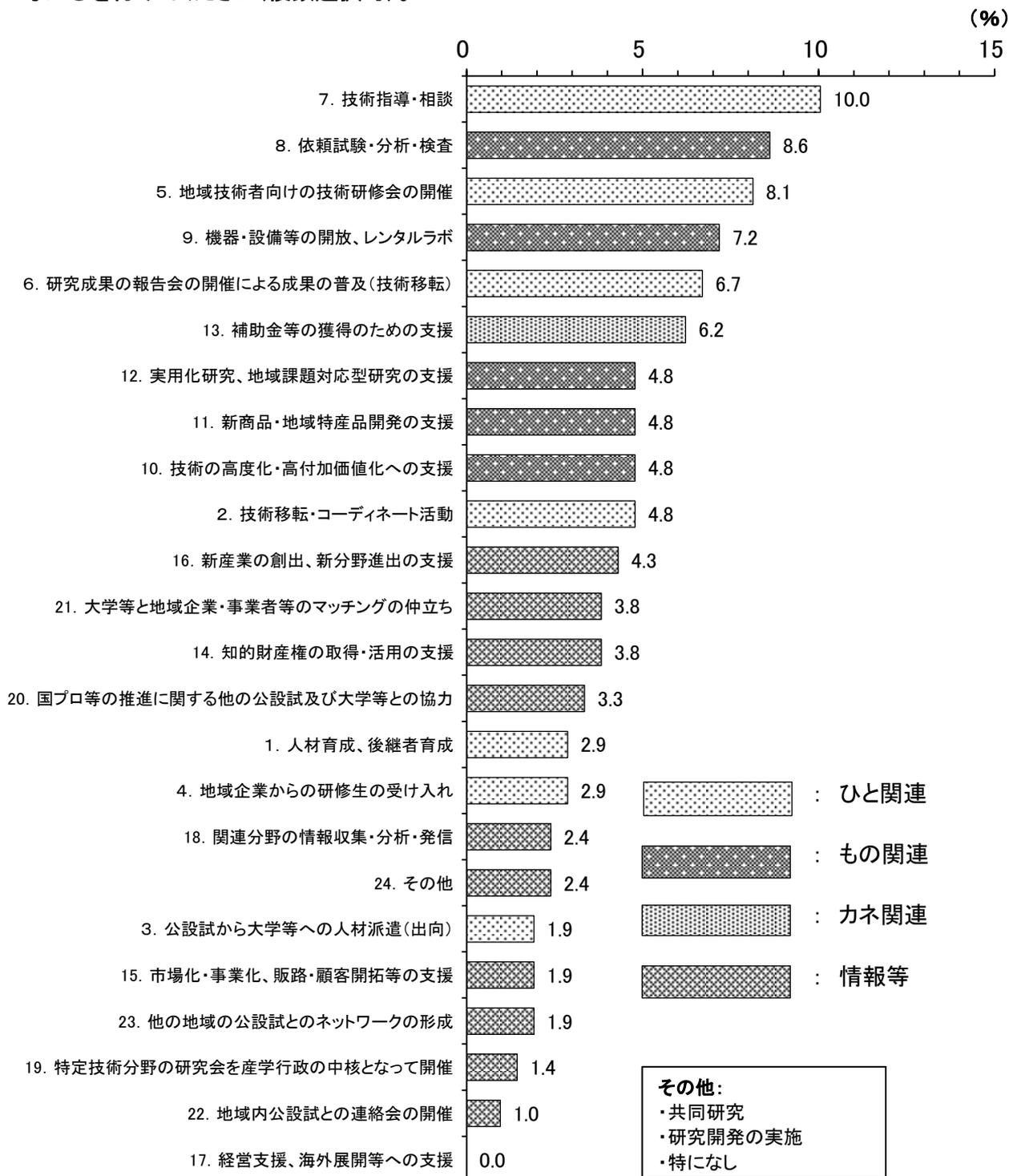
なお、「市場への近接性」の割合は低く、「交通インフラの存在」も回答がなかったことから、成果について「距離」はあまりポイントとなっていないことが明らかとなった。

【問7】問5の評価項目・目標について、上手くいかなかった問題点・課題は何だと思われますか。該当する番号に○を付けてください(複数選択可)。



クラスター形成・プロジェクトの問題点・課題について質問したところ、「研究開発のための資金の不足」が11.5%と最も多く、多くの事業が資金の確保に苦慮している実態が明らかとなった。また、「ニーズとシーズの技術レベルのミスマッチ」も11.5%であり、「事業終了後、研究成果を地域企業に技術移転し、地域産業に貢献する仕組みが弱い」、「出口を考えない研究開発」、「市場開発能力の不足」がそれぞれ9.7%であった。これらは、プロジェクト終了後の問題点・課題と考えられることから、事業後におけるフォローアップの重要性がうかがわれた。

【問8】事業を実施するにあたり、公設試験研究機関からどのような関与がありましたか。該当する番号に○を付けてください(複数選択可)。

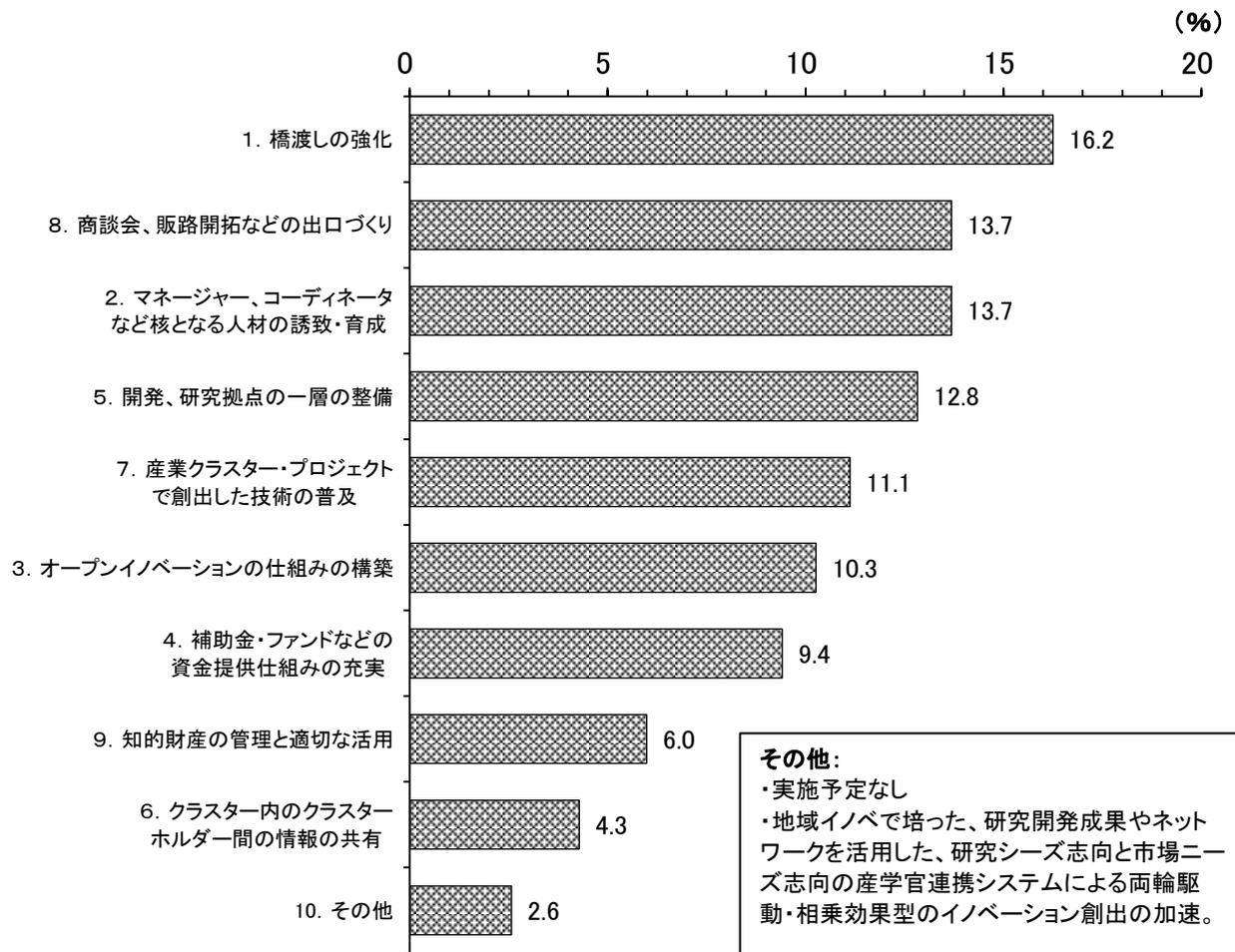


クラスター形成・プロジェクトへの公的試験研究機関の関与について質問したところ、「技術指導・相談」が10.0%と最も多く、次いで、「依頼試験・分析・検査」が8.6%と続き、公的試験研究機関の通常の一般業務の範囲での関与が主なものとなっていることが明らかとなった。

続いて、「地域技術者向けの技術研修会の開催」が8.1%、「機器・設備等の開放、レンタルラボ」が7.2%、「研究成果の報告会の開催による成果の普及(技術移転)」が6.7%となっており、公的試験研究機関のがプロジェクトの成果の普及に対しても、大きく関与していることが明らかとなった。

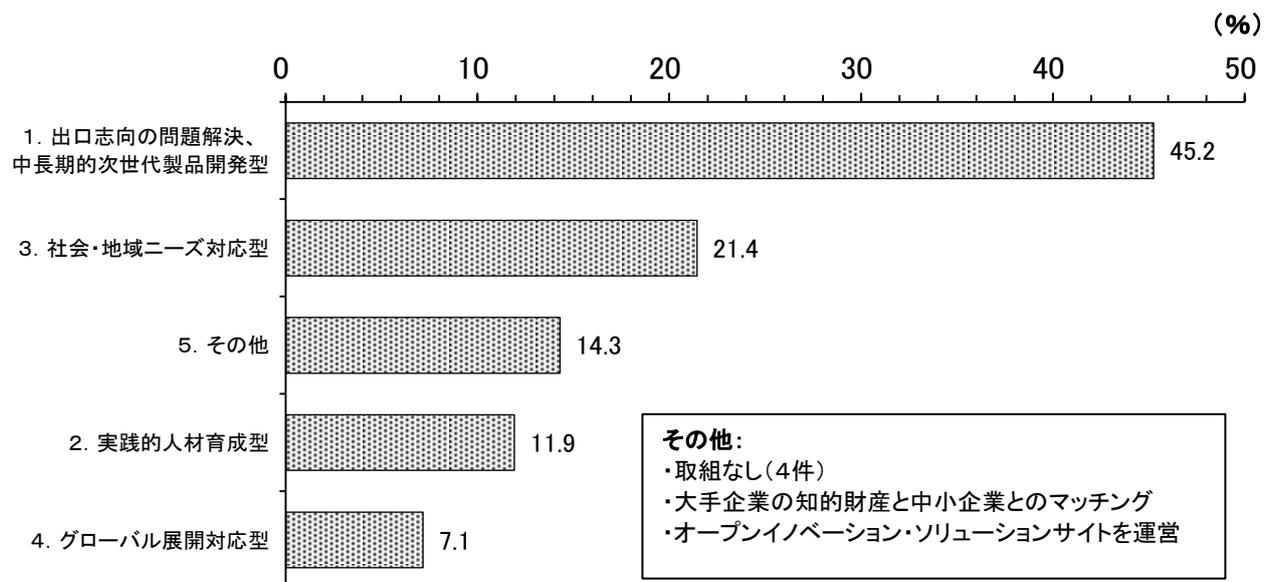
また、それぞれ回答の割合は低いものの幅広い関与が認められ、技術開発の支援機関として重要な役割を果たしている実態が明らかとなった。

【問9】今後の産業クラスター・プロジェクトの展開についてお教えてください。(該当する番号に○を付けてください(複数選択可)。)



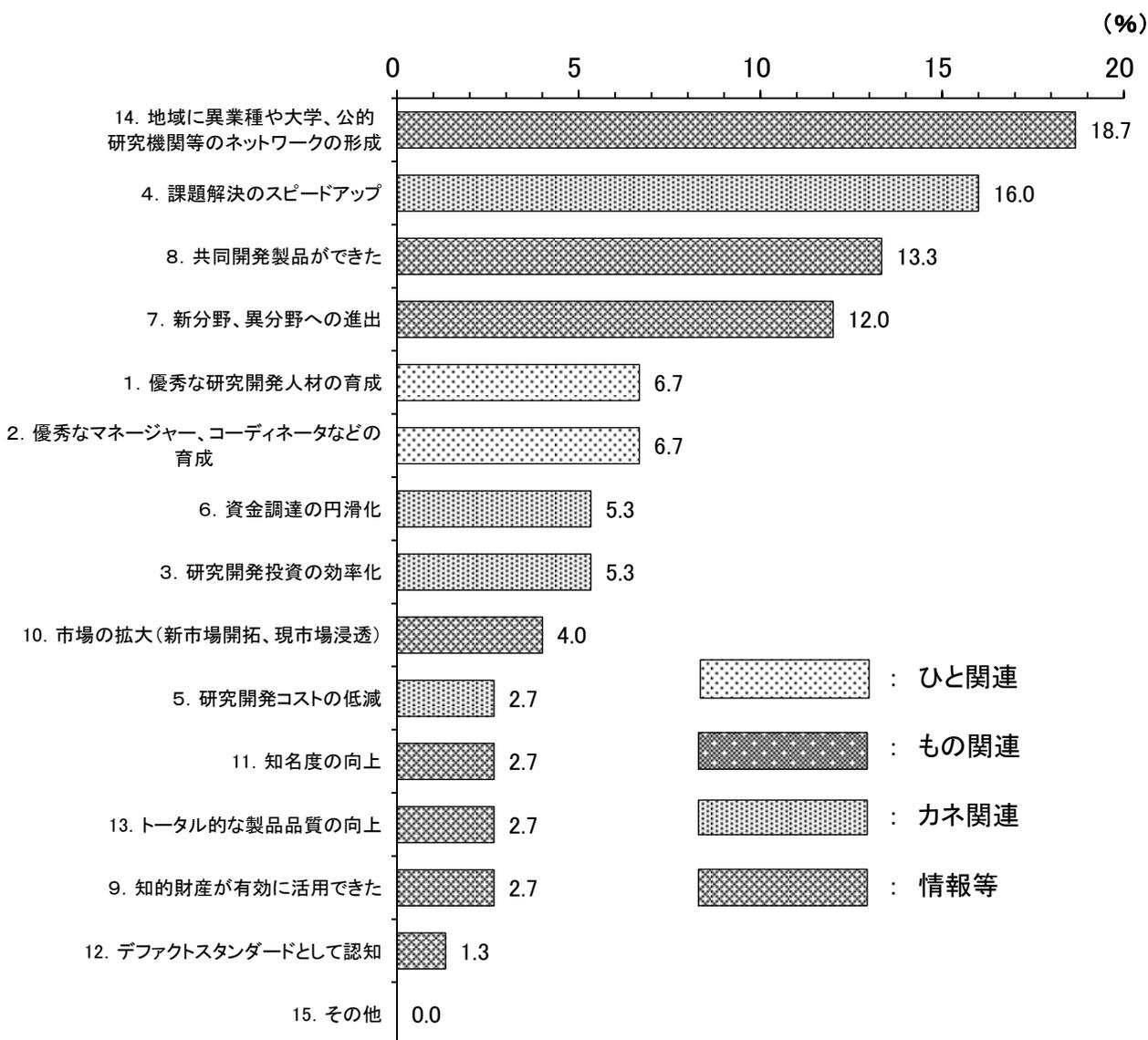
クラスター形成・プロジェクトの今後の展開について質問したところ、「橋渡しの強化」が16.2%と最も多く、次いで「商談会、販路開拓などの出口づくり」が13.7%の回答があった。このことから、プロジェクト参画者の連携を強化しながら、その成果をビジネスにつなげていくことを重視していることがうかがわれた。

【問10】オープンイノベーションに関する取組について実施されていますか。またどのような連携のタイプですか(だと思われませんか)。該当する番号に○を付けてください(複数回答可)。



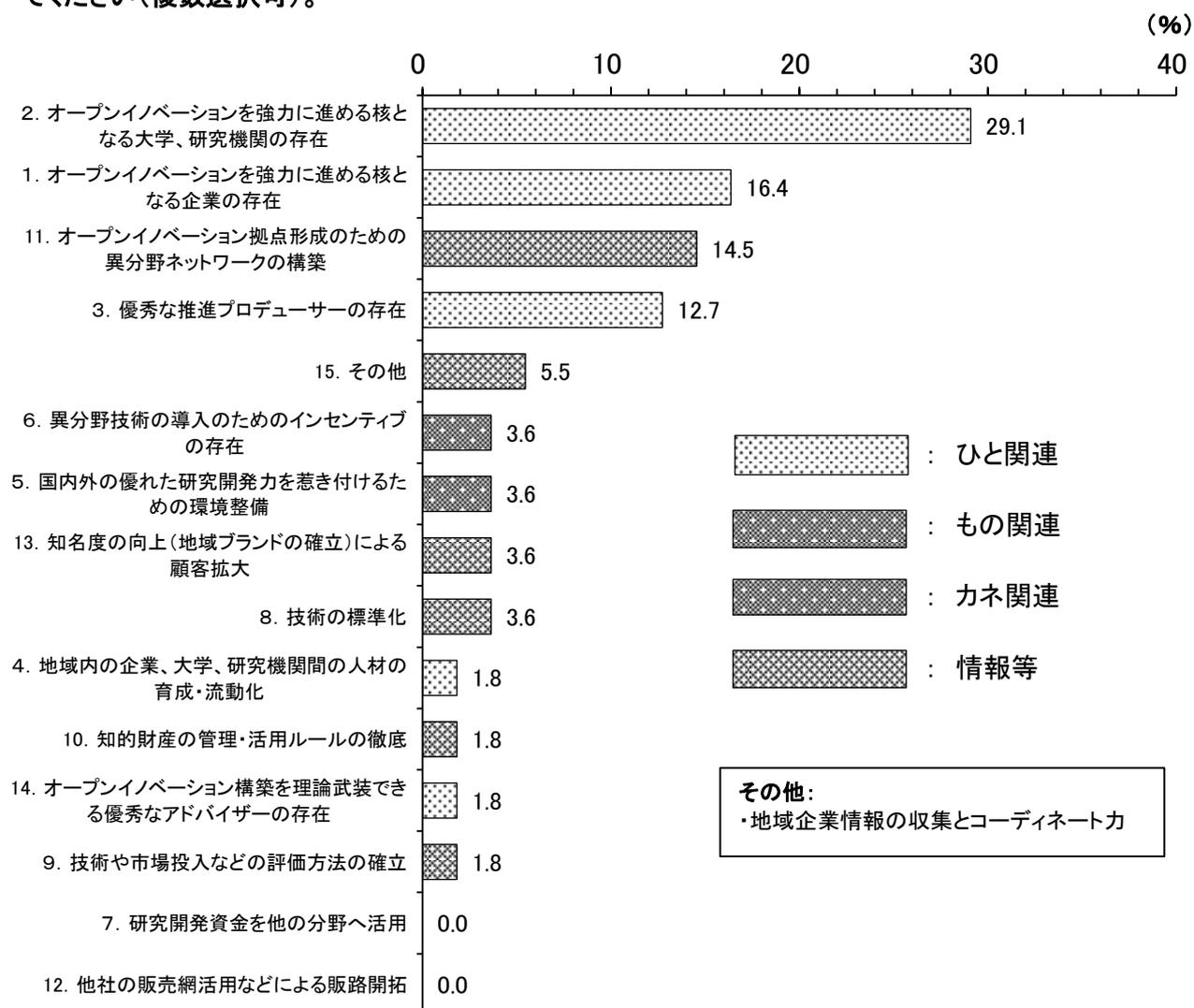
オープンイノベーションの連携のタイプについて質問したところ、「出口志向の問題解決、中長期的次世代製品開発」が45.2%と断トツにウエイトが高く、オープンイノベーションの取組は、将来のビジネス展開を重視している実態が明らかとなった。

【問11】オープンイノベーションに関する取組をされている方にお聞きします。オープンイノベーションシステムの構築することにより得られた成果はどのようなものですか。該当する番号に○を付けてください。(複数選択可)



オープンイノベーションの成果について質問したところ、「地域に異業種や大学、公的試験研究機関等のネットワークの形成」が18.7%と最も多く、次いで、「課題解決のスピードアップ」が16.0%、「共同開発製品ができた」が13.3%、「新分野、異分野への進出」が12.0%と続く結果となった。このことから、オープンイノベーションが地域のネットワークの形成を促進させ、課題解決や製品開発、新分野進出に有効に働いていることが明らかとなった。

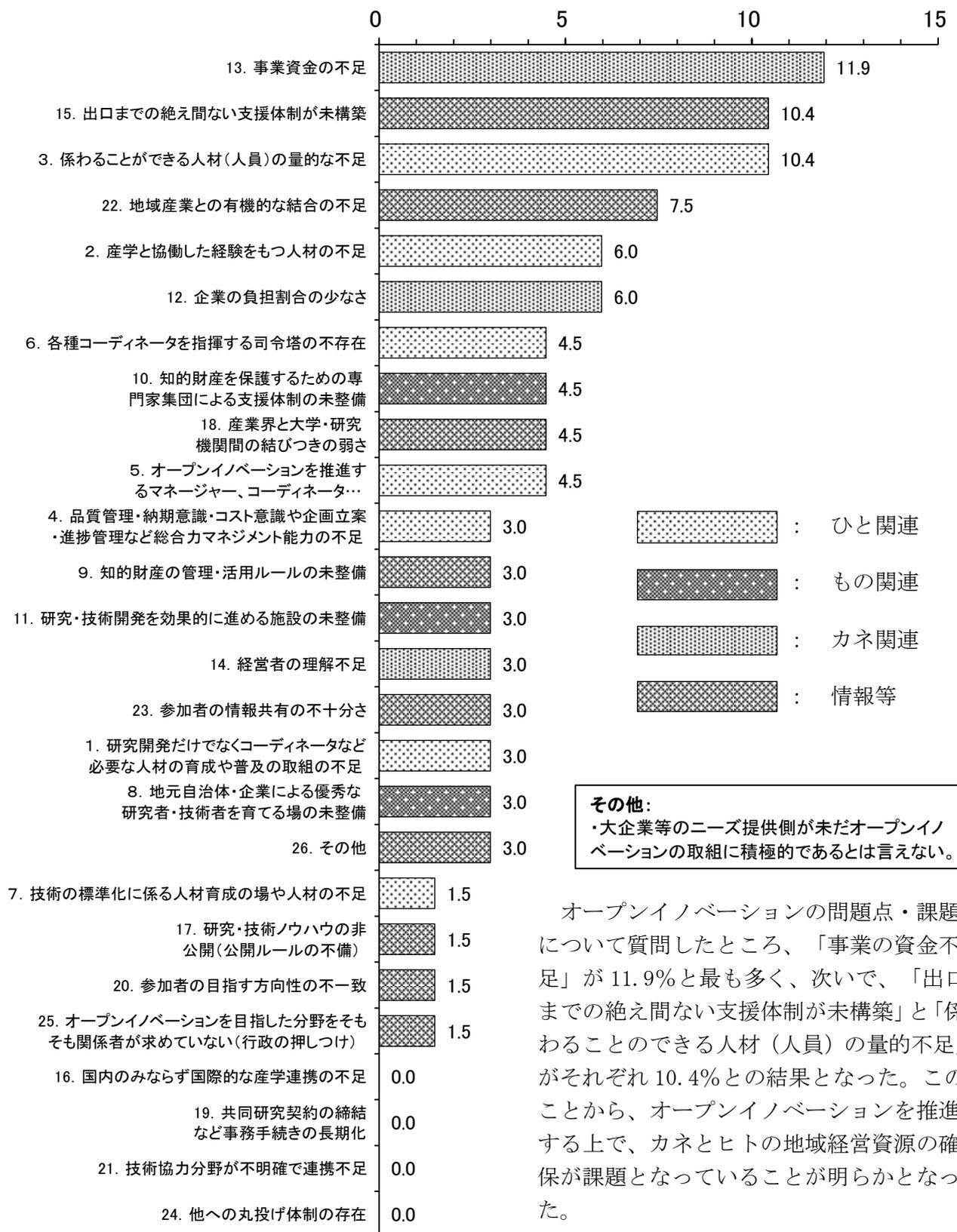
【問12】問11で得られた成果について、成功した要因は何だと思われますか。該当する番号に○を付けてください(複数選択可)。



オープンイノベーションの成功要因について質問したところ、「オープンイノベーションを強力に進める核となる大学、研究機関の存在」が29.1%と最も多く、次いで、「オープンイノベーションを強力に進める核となる企業の存在」が16.4%、「オープンイノベーション拠点形成のための異分野ネットワークの構築」が14.5%、「優秀な推進プロデューサーの存在」と続き、クローズになりがちな技術情報等をオープンにする必要のあるオープンイノベーションには、自者の弱みを他者の強みで埋めるといった、相互にウィンウィンの関係を構築するための強い推進主体の存在とプロデュースの重要性が明らかとなった。

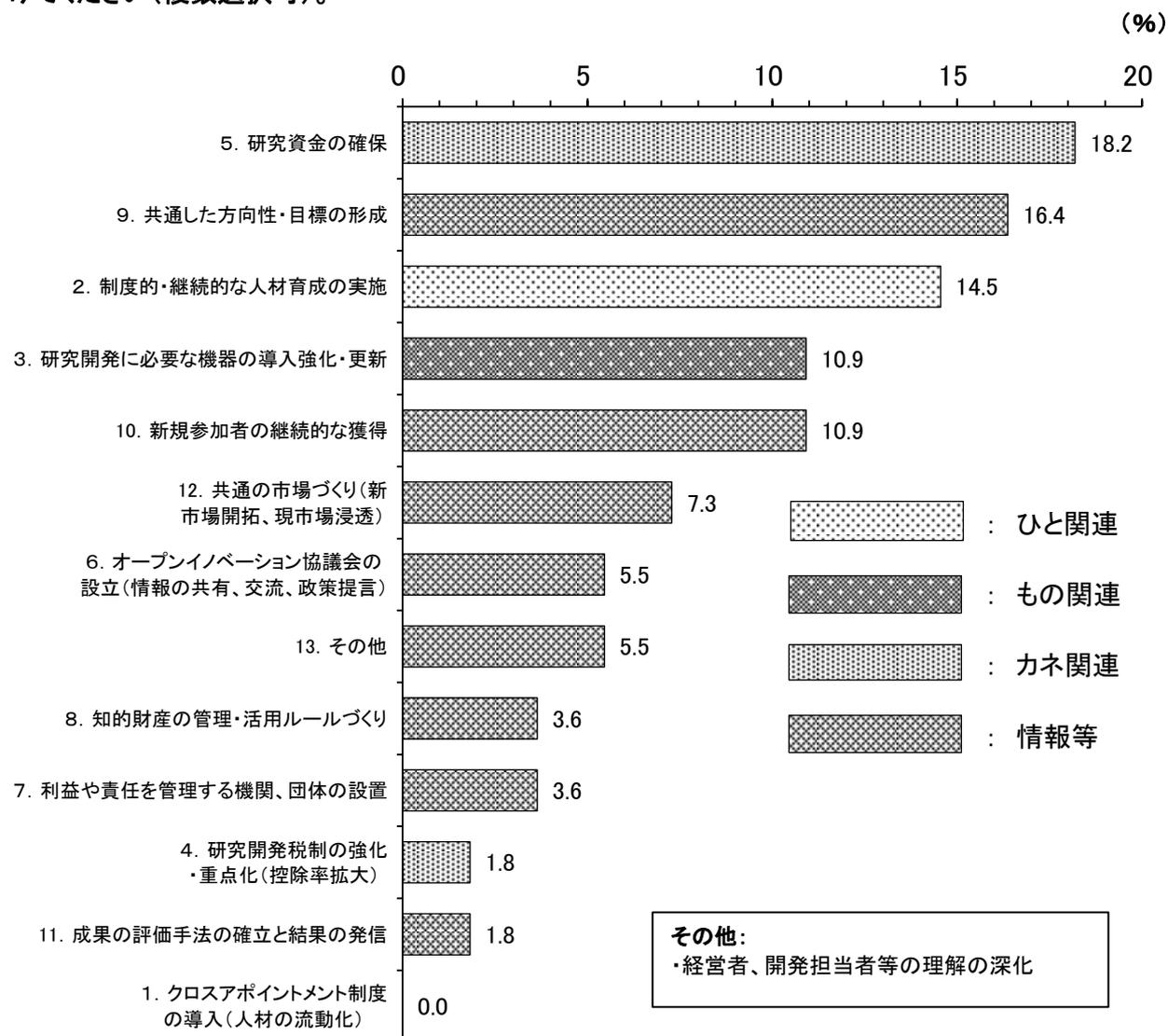
【問13】また、上手いかなかった問題点・課題は何だと思われますか。該当する番号に○を付けてください(複数選択可)。

(%)



オープンイノベーションの問題点・課題について質問したところ、「事業の資金不足」が11.9%と最も多く、次いで、「出口までの絶え間ない支援体制が未構築」と「係わることのできる人材(人員)の量的不足」がそれぞれ10.4%との結果となった。このことから、オープンイノベーションを推進する上で、カネとヒトの地域経営資源の確保が課題となっていることが明らかとなった。

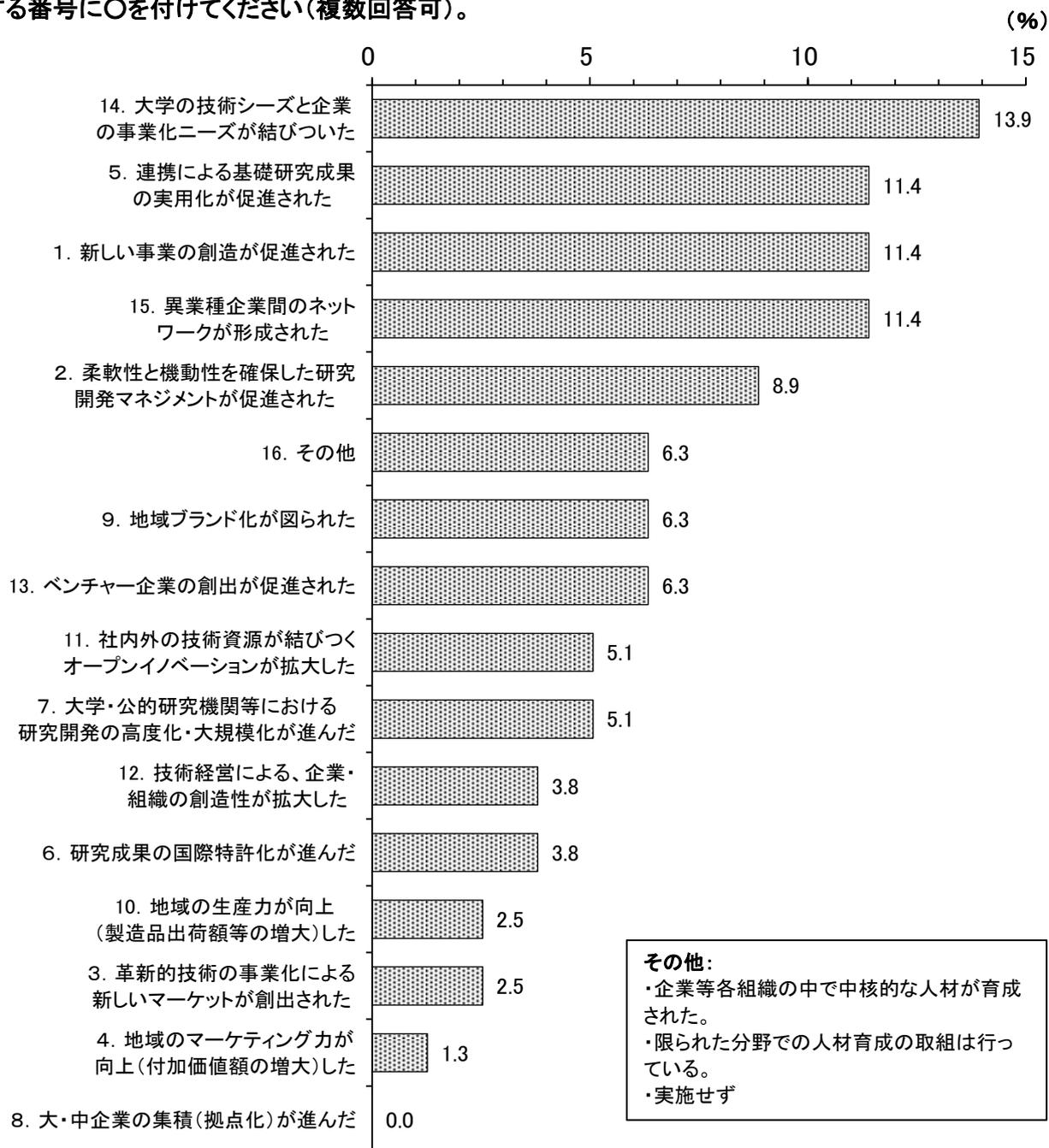
【問14】今後のオープンイノベーションに関する展開について教えてください。該当する番号に○を付けてください(複数選択可)。



オープンイノベーションの今後の展開について質問したところ、「研究資金の確保」が18.2%と最も多く、次いで「共通した方向性・目標の形成」が16.4%、「制度的・継続的な人材育成の実施」が14.5%と多く、このことから、【問13】で明らかとなったカネとヒトとの地域経営資源の確保といった課題の解決に取り組んでいく姿勢が明らかとなった。

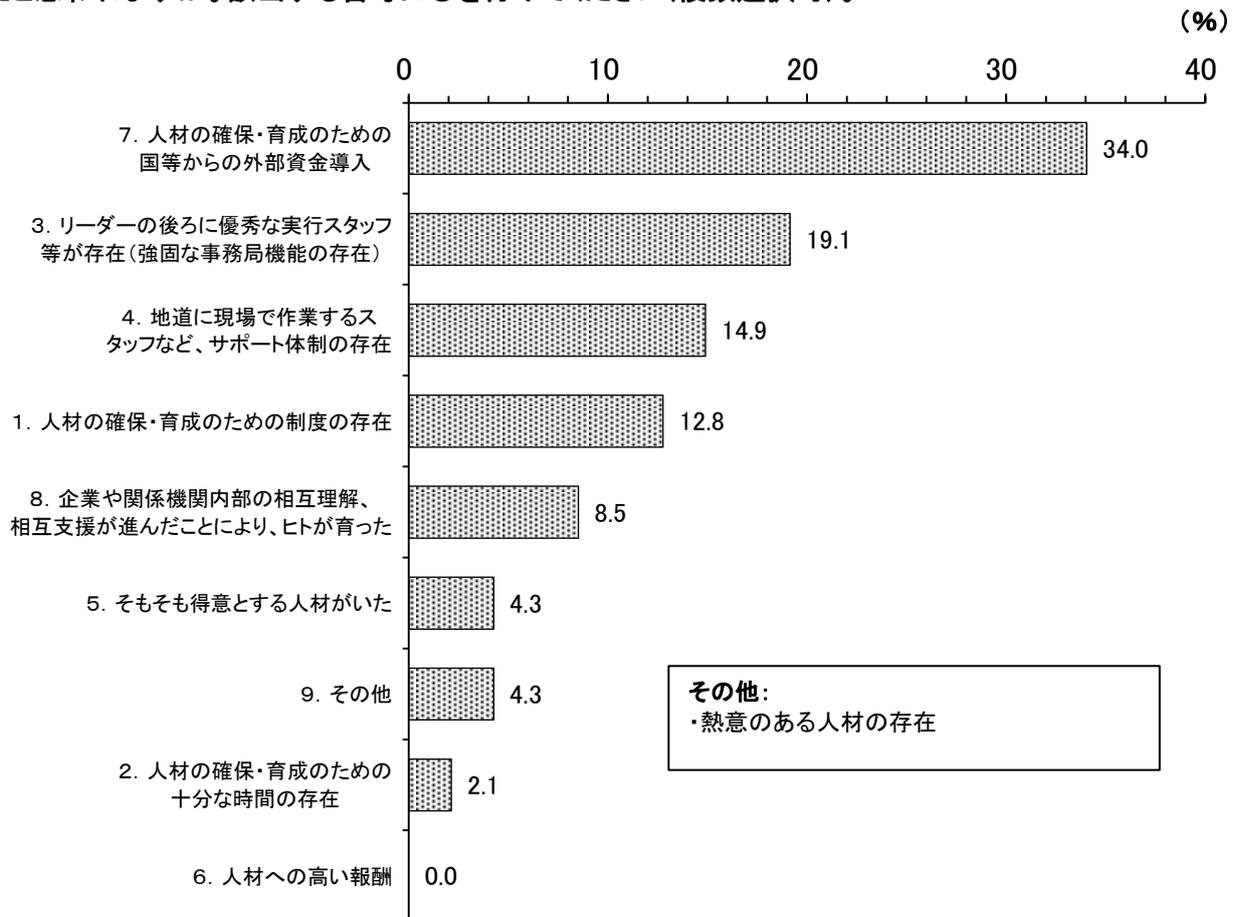
【問15】地域イノベーションを推進していくにあたり、研究者や技術者だけではその創出は困難であり、国際標準化も含めたビジネス戦略の立案・推進できる人材とその能力を最大限引き出せる仕組みが必要であると考えます。

そこで、イノベーション創出に向けた人材の確保、育成を図られている方にお聞きます。イノベーション創出の人材の確保、育成に向けた今までの取組された中でどのような成果ができましたか。該当する番号に○を付けてください(複数回答可)。(%)



イノベーション創出のためのコアとなる人材の確保、育成による成果について質問したところ、「大学の技術シーズと企業の事業化ニーズが結びついた」が13.9%と最も多く、次いで「新しい事業の創造が促進された」と「連携による基礎研究成果の実用化が促進された」と「異業種企業間のネットワークが形成された」がそれぞれ11.4%多い結果となった。このことから、イノベーション創出に向け、コアとなる人材が幅広く関与、活躍している実態とコア人材が不可欠な存在であることが明らかとなった。

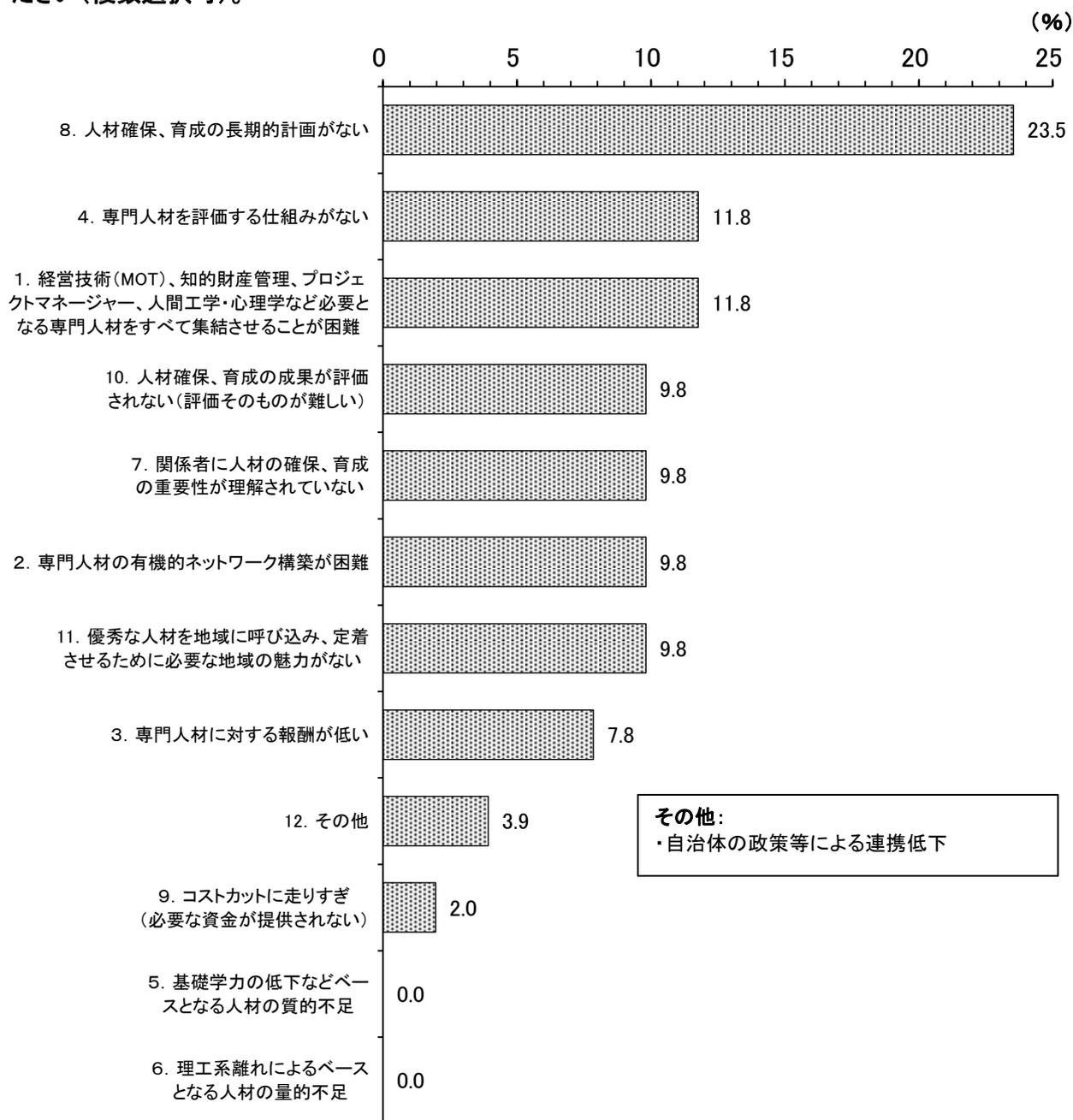
【問16】人材の確保・育成に関する取組について、問15で得られた成果について、成功した要因は何だと思われますか。該当する番号に○を付けてください(複数選択可)。



イノベーション創出のためのコアとなる人材の確保、育成によって成果が出た要因について質問したところ、「人材の確保・育成のための国等からの外部資金導入」が34.0%と圧倒的に多く、人材の確保・育成も資金確保の問題と直結していることが明らかとなった。

次いで、「リーダーの後ろに優秀な実行スタッフ等が存在(強固な事務局機能の存在)」が19.1%を占め、コアとなる人材だけではイノベーションの創出は困難であり、そうした人材をバックアップできるかどうか重要なカギとなる実態が明らかとなった。

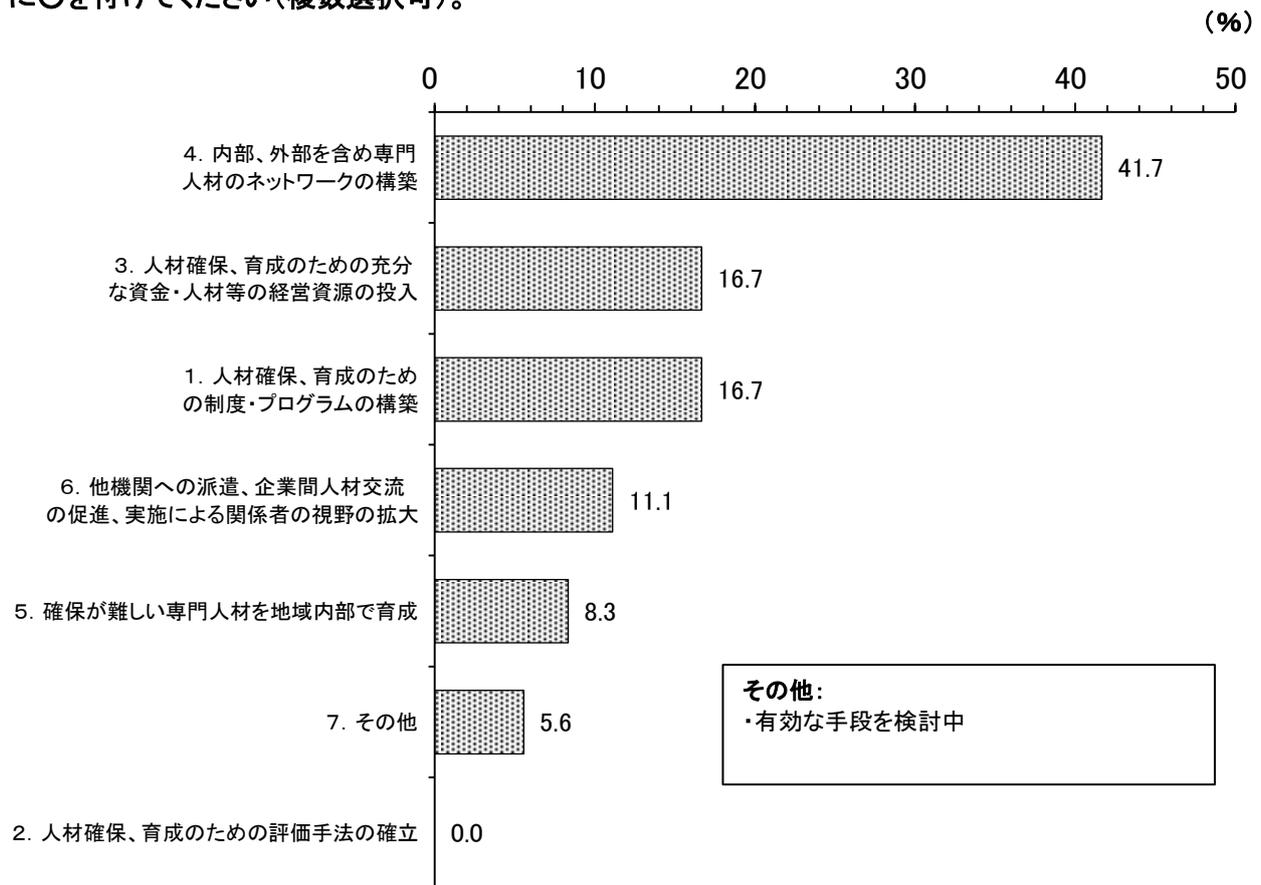
【問17】また、上手いかなかった問題点・課題は何だと思われますか。該当する番号に○を付けてください(複数選択可)。



イノベーション創出のためのコアとなる人材の確保、育成に向けた問題点・課題について質問したところ、「人材確保・育成の長期的計画がない」が23.5%と最も多く、イノベーション創出には人材の存在が重要なファクターとなっている一方で、計画的な取組が行われていない実態が明らかとなった。

また、「専門人材を評価する仕組みがない」が次いで多い回答となっており、人材をどう評価すべきか適当となる基準がない問題点・課題の存在が明らかとなった。

【問18】人材の確保・育成に関する取組について、今後の展開についてお教えてください。該当する番号に○を付けてください(複数選択可)。



イノベーション創出のためのコアとなる人材の確保、育成に向けた今後の展開について質問したところ、「内部、外部を含めた専門人材のネットワークの構築」が 41.7%と断トツに多く、地域に不足するコアとなる人材の確保、育成について、ネットワークの構築、活用により解決を図っていく意向が明らかとなった。

次いで、「人材確保、育成のための十分な資金・人材等の経営資源の投入」と「人材確保、育成のための制度・プログラムの構築」がそれぞれ 16.7%と多く、イノベーション創出に向けてヒトという地域経営資源に対して、重点投資していく意向についても明らかとなった。

イノベーション創出に向けた 産業クラスター・プロジェクトに関する先進事例調査票

☆ご記入にあたって☆

・本調査は、愛知県の試験研究機関であり、産学行政連携の研究プロジェクト推進機関である「あいち産業科学技術総合センター」（以下、「センター」という。）の下記項目についてのアクションプランを検討するに当たり「産業クラスター・プロジェクト」の先進事例を調査し、施策の効果、成功要因、課題などを把握するために行うものです。

- (1) 地域イノベーションクラスターの創成について
- (2) オープンイノベーションシステムの構築について
- (3) イノベーション・コア人材の確保・育成について

・本アンケート調査は、「産業クラスター・知的クラスター・地域イノベーションなどのプロジェクトの推進機関・拠点機関の事務局の方」に送付しています。プロジェクト全体について可能な範囲でご回答いただきますようお願い申し上げます。

・アンケート結果は、個別の事例を研究しセンターの運営のために利用し、ご回答いただいた個別のご回答、内容を機関のお名前が分かる状態で公表されることは一切ありません。

・ご記入いただきましたアンケート票は **6月15日（月）まで**に、同封の返信用封筒に納め、ご返送ください。

・電子メールでの回答をご希望の方は、本ページの右上番号と貴機関名を明記の上、電子メールにてファイル送付をご依頼ください。

請求メールアドレス：acist@pref.aichi.lg.jp

☆お問い合わせ先☆

<アンケート回収業務担当>

あいち産業科学技術総合センター企画連携部企画室

所在地：〒471-0356 愛知県豊田市八草町秋合1267番1

TEL：0561-76-8307

FAX：0561-76-8309

Mail：acist@pref.aichi.lg.jp

担当：太田、柴山

イノベーション創出に向けた産業クラスター・プロジェクトに関する先進事例調査
(注意)

(欄が狭い場合は、別紙に記載し添付してください。また、複数の事業を実施している場合は、事業分の調査票をコピーまたは、事務局に電子ファイルを依頼し印刷してご記入をお願いします。)

1 貴機関概要

【問1】貴機関について、下記に記載させて頂きましたが内容に変更がある場合のみ、変更後の情報を下の枠内にご記入ください。また、ご回答者様の情報をご記入ください。

貴社名	
所在地	()
代表 電話番号	



新貴社名	
新所在地	(〒 -)
新代表 電話番号	- -

(ご回答者様の情報をご記入ください。)

ご回答 担当者様※	お名前： 所属： 部署： 役職： 電話番号： - - メールアドレス： @
--------------	--

2 事業概要について

【問2】貴機関で実施した産業クラスター・プロジェクトの事業概要（下記項目）についてお教えてください。

（欄が狭い場合は、別紙に記載し添付してください。また、複数の事業を実施している場合は、事業分の調査票をコピーまたは、事務局に電子ファイルをご依頼いただき、印刷してご記入をお願いします。）

(1) 産業クラスター・プロジェクト等の名称

[]

(2) クラスターを形成する（した）分野は次のうちどれに一番近いと思いますか。

該当する番号に○を付けてください。

- | | |
|--|---------------|
| 1. 次世代自動車 | 2. 航空宇宙 |
| 3. ロボット | 4. 健康長寿（医工連携） |
| 5. IT | 6. 金属 |
| 7. 木材 | 8. 機械 |
| 9. 窯業・セラミックス | 10. 食品・バイオ |
| 11. 環境・新エネルギー（水素、燃料電池、パワーデバイス含む） | |
| 12. 繊維（CFRP、セルロースナノファイバ、カーボンナノファイバを含む） | |
| 13. 計測技術（ナノ計測、シンクロトロン光利用技術などの分析技術） | |
| 14. 加工技術（積層造形、3Dプリンタ技術など含む） | |
| 15. その他（ | ） |

(3) 事業期間

（ ）年から（ ）年まで

(4) 事業規模について、今までの（全体計画の）おおよその事業費についてお教えてください。

事業全体： 億円

（うち： ハード 億円、ソフト 億円）

(5) 参加機関数

①行政機関 （ 国・県 ）（該当に○を付けてください。）

②公設試験研究機関 （ 機関 ）

③経営支援機関 （ 機関 ）

④研究支援機関 （ 機関 ）

⑤大学 （ 大学 ）

⑥金融機関 （ 機関 ）

⑦産業団体 （ 団体 ）

⑧企業 （ 企業 ）

⑨その他 （ 機関 ）

【問3】貴プロジェクト・計画において、他のプロジェクト・計画にない特徴と思われることについてお教えてください

[]

3 地域イノベーションクラスターの創成について

【問4】貴プロジェクトで主とする目的^{注1}はどれですか。該当する番号に○を付けてください（複数選択可）。

1. イノベーション促進に向けた知的集積の強化
2. イノベーション促進に向けた新技術の創出
3. 地場産業・技術の発展
4. 核となる中堅企業の創出
5. 核となるベンチャー企業の創出
6. 経済的危機感の緩和
7. 自治体の主体性の創出
8. 支援インフラの整備
9. 地域での産学官連携の強化
10. 核となる地域リーダーの育成
11. 世界市場アクセスを目指した大企業との連携強化
12. 他のクラスターとの連携・競争の強化
13. 地域や国内での注目度の強化（地域ブランド化）
14. 他地域からの企業誘致
15. 他地域からの核となる人材の流入強化
16. 地域振興との相乗効果の現出
17. その他（ ）

注1：地域イノベーションの成功要因及び促進政策に関する調査研究－「持続性」ある日本型クラスター形成・展開論－（要旨 地域クラスターの日本的成功要素を参考に事務作成）（Policy Study No. 9、文部科学省 科学技術政策研究所、2004年、：
<http://www.nistep.go.jp/achiev/ftx/jpn/pol009j/idx009j.html>）を参照

【問5】クラスターを創成することにより得られた成果の現状について、成果を評価するための指標・数値目標及び実績についてお教えてください。

（該当する番号に○を付け（複数選択可）、その目標値と、実績があるものについてはその実績を分かる範囲で記入してください。）

- | | | | |
|-------------------------|------|-------|----|
| 1. 新規製品化数 | （目標： | 件、実績： | 件） |
| 2. 特許出願数 | （目標： | 件、実績： | 件） |
| 3. ライセンス供与数 | （目標： | 件、実績： | 件） |
| 4. 新規研究開発数 | （目標： | 件、実績： | 件） |
| 5. 新規共同研究数 | （目標： | 件、実績： | 件） |
| 6. 技術移転数 | （目標： | 件、実績： | 件） |
| 7. 売上高 | （目標： | 円、実績： | 円） |
| 8. 利益高 | （目標： | 円、実績： | 円） |
| 9. シェア率 | （目標： | %、実績： | %） |
| 10. 雇用数 | （目標： | 人、実績： | 人） |
| 11. 顧客数 | （目標： | 人、実績： | 人） |
| 12. 進出企業数 | （目標： | 社、実績： | 社） |
| 13. 売り込み先企業数 | （目標： | 社、実績： | 社） |
| 14. ドクター取得数 | （目標： | 人、実績： | 人） |
| 15. 技術コンシェルジュ（コーディネータ）数 | （目標： | 人、実績： | 人） |
| 16. 論文数 | （目標： | 件、実績： | 件） |
| 17. マスコミ（新聞・テレビ）の取扱件数 | （目標： | 件、実績： | 件） |
| 18. 外部からの問合せ数 | （目標： | 件、実績： | 件） |
| 19. 新設ベンチャー企業数 | （目標： | 社、実績： | 社） |
| 20. 企業体数 | （目標： | 社、実績： | 社） |
| 21. 研究費の獲得 | （目標： | 円、実績： | 円） |
| 22. その他（ | | | ） |

【問6】問5で得られた成果について、成功した要因は何だと思われますか。該当する番号に○を付けてください（複数選択可）。

- | | |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究分野における人材の育成・獲得 2. 事業（製造・販売など）・経営分野における人材の育成・獲得 3. 既存研究開発のてこ入れ、新規研究開発への着手 4. 知的集積の存在 5. 世界的技術の存在 6. 地場産業・技術の存在 7. 核となる中小企業の存在 8. 核となるベンチャー企業の存在 9. 核となる地域リーダーの存在 10. カリスマ的な著名人の存在 11. コーディネート人材の存在 12. プロジェクト全体をマネジメントできる人材の存在 13. 地域連携による産学官連携 14. 世界市場アクセスを目指した大企業との連携 15. 他のクラスターとの連携・競争 16. 他地域からの企業・人材流入 17. 研究機関からの技術移転、特許取得 18. 支援インフラの存在 19. 交通インフラの存在 20. 研究する場の存在 21. 公的研究機関の存在 22. 行政の支援策や補助金などの情報を入手・活用 23. 必要資金の獲得・融資 24. 税制優遇制度の存在 25. 資金提供者の技術に関する理解 26. 新規顧客、新規販路の開拓 27. 業界・市場動向の入手、顧客ニーズの把握 28. マーケティング、広報機会の存在 29. 地域や国内での注目度 30. 参加企業のやる気 31. 適切な事業期間での実施 32. 技術面・研究面での相談機会 33. 企業、大学、研究機関等との物理的距離の近接性 34. 同業種企業とのネットワークの存在 35. 異業種企業とのネットワークの存在 36. 大学や公的研究機関とのネットワークの存在 37. 商社など販路企業とのネットワークの存在 38. 金融機関とのネットワークの存在 39. 市場への近接性 40. 良好な居住環境の存在 41. その他（ | <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="font-size: 3em; margin-right: 10px;">}</div> <div style="text-align: center;">ヒト系</div> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="font-size: 3em; margin-right: 10px;">}</div> <div style="text-align: center;">モノ系</div> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="font-size: 3em; margin-right: 10px;">}</div> <div style="text-align: center;">カネ系</div> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="font-size: 3em; margin-right: 10px;">}</div> <div style="text-align: center;">情報・ネットワーク系等</div> </div> |
|--|---|

【問7】問5の評価項目・目標について、上手くいかなかった問題点・課題は何だと思われますか。該当する番号に○を付けてください（複数選択可）。

- | | |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究開発する人材が不足 2. プロジェクトを推進可能な人材が不足 3. 有能な人材を探せない 4. サプライチェーンマネジメント能力不足 5. 核となる技術がない 6. ニーズとシーズの技術レベルのミスマッチ 7. 市場開発ノウハウの不足 8. シーズ側の技術の出し惜しみ 9. 企業側の情報の不開示 10. 公表の義務づけ 11. 知的財産の取扱いの問題（管理の不徹底、活用ルールの不存在など） 12. 設備の老朽化 13. 高額な設備の導入資金の不足 14. 開発研究のための場所の不足 15. 連携する機関の不足 16. 相談する場所・機会の不足 17. 開発研究のための資金の不足 18. 投資する資金の不足 19. 資金が借りられない（担保がない） 20. 周辺に市場がない 21. 企業間の足の引っ張り合い 22. 出口を考えない研究開発 23. 参加者間の熱意の違い 24. 事業終了後、研究成果を地域企業に技術移転し、地域産業に貢献する仕組みが弱い 25. その他（ | <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="font-size: 3em; margin-right: 5px;">}</div> <div style="text-align: center;"> <p>ヒト系</p> <p>モノ系</p> <p>カネ系</p> <p>情報・ネット
ワーク系等</p> </div> </div> |
|--|--|

【問8】事業を実施するにあたり、公設試験研究機関からどのような関与がありましたか。該当する番号に○を付けてください（複数選択可）。

- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 人材育成、後継者育成 2. 技術移転・コーディネート活動 3. 公設試から大学等への人材派遣（出向） 4. 地域企業からの研修生の受け入れ 5. 地域技術者向けの技術研修会の開催 6. 研究成果の報告会の開催による成果の普及（技術移転） 7. 技術指導・相談 8. 依頼試験・分析・検査 9. 機器・設備等の開放、レンタルラボ 10. 技術の高度化・高付加価値化への支援 11. 新商品・地域特産品開発の支援 12. 実用化研究、地域課題対応型研究の支援 13. 補助金等の獲得のための支援 14. 知的財産権の取得・活用の支援 15. 市場化・事業化、販路・顧客開拓等の支援 16. 新産業の創出、新分野進出の支援 17. 経営支援、海外展開等への支援 18. 関連分野の情報収集・分析・発信 19. 特定技術分野の研究会を産学官の中核となって開催 20. 国プロ等の推進に関する他の公設試及び大学等との協力 21. 大学等と地域企業・事業者等のマッチングの仲立ち 22. 地域内公設試との連絡会の開催 23. 他の地域の公設試とのネットワークの形成 24. その他（ | <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="font-size: 3em; margin-right: 5px;">}</div> <div style="text-align: center;"> <p>ヒト系</p> <p>モノ系</p> <p>カネ系</p> <p>情報・ネット
ワーク系等</p> </div> </div> |
|---|--|

【問9】今後の産業クラスター・プロジェクトの展開についてお教えてください。(該当する番号に○を付けてください(複数選択可))

- 1. 橋渡しの強化
- 2. マネージャー、コーディネータなど核となる人材の誘致・育成
- 3. オープンイノベーションの仕組みの構築
- 4. 補助金・ファンドなどの資金提供仕組みの充実
- 5. 開発、研究拠点の一層の整備
- 6. クラスター内のクラスターホルダー間の情報の共有
- 7. 産業クラスター・プロジェクトで創出した技術の普及
- 8. 商談会、販路開拓などの出口づくり
- 9. 知的財産の管理と適切な活用
- 10. その他()

4 オープンイノベーションシステムの構築について

【問10】オープンイノベーションに関する取組について実施されていますか。またどのような連携の類型^{注2}ですか(だと思われませんか)。該当する番号に○を付けてください(複数回答可)。

- 1. 出口志向の問題解決、中長期的次世代製品開発型
- 2. 実践的人材育成型
- 3. 社会・地域ニーズ対応型
- 4. グローバル展開対応型
- 5. その他()

注2：オープンイノベーションによる研究開発力の強化及び技術人材の育成。流動化・活用～資源の重点・集中配分と横展開～(産業構造審議会産業技術分科会基本問題小委員会(第10回)-配付資料4-1, p14 類型例による, 平成22年4月1日, <http://www.meti.go.jp/committee/materials2/data/g100401bj.html>)を参照

【問11】オープンイノベーションに関する取組をされている方にお聞きします。オープンイノベーションシステムの構築することにより得られた成果はどのようなものですか。該当する番号に○を付けてください。(複数選択可)

- 1. 優秀な研究開発人材の育成
 - 2. 優秀なマネージャー、コーディネータなどの育成
 - 3. 研究開発投資の効率化
 - 4. 課題解決のスピードアップ
 - 5. 研究開発コストの低減
 - 6. 資金調達の円滑化
 - 7. 新分野、異分野への進出
 - 8. 共同開発製品ができた
 - 9. 知的財産が有効に活用できた
 - 10. 市場の拡大(新市場開拓、現市場浸透)
 - 11. 知名度の向上
 - 12. デファクトスタンダードとして認知
 - 13. トータルの製品品質の向上
 - 14. 地域に異業種や大学、公的研究機関等のネットワークの形成
 - 15. その他()
- ヒト系
 モノ系
 カネ系
 ワーク系等
 情報・ネット

【問 17】 また、上手くいかなかった問題点・課題は何だと思われますか。該当する番号に○を付けてください（複数選択可）。

1. 経営技術（MOT）、知的財産管理、プロジェクトマネージャー、人間工学・心理学など必要となる専門人材をすべて集結させることが困難
2. 専門人材の有機的ネットワーク構築が困難
3. 専門人材に対する報酬が低い
4. 専門人材を評価する仕組みがない
5. 基礎学力の低下などベースとなる人材の質的不足
6. 理工系離れによるベースとなる人材の量的不足
7. 関係者に人材の確保、育成の重要性が理解されていない
8. 人材確保、育成の長期的計画がない
9. コストカットに走りすぎ（必要な資金が提供されない）
10. 人材確保、育成の成果が評価されない（評価そのものが難しい）
11. 優秀な人材を地域に呼び込み、定着させるために必要な地域の魅力がない
12. その他（ ）

【問 18】 人材の確保・育成に関する取組について、今後の展開についてお教えてください。該当する番号に○を付けてください（複数選択可）。

1. 人材確保、育成のための制度・プログラムの構築
2. 人材確保、育成のための評価手法の確立
3. 人材確保、育成のための十分な資金・人材等の経営資源の投入
4. 内部、外部を含め専門人材のネットワークの構築
5. 確保が難しい専門人材を地域内部で育成
6. 他機関への派遣、企業間人材交流の促進、実施による関係者の視野の拡大
7. その他（ ）

【問 19】 産業クラスター全般、およびプロジェクト推進に関して、ご意見がございましたら、ご記入ください
（自由記述）。

【お願い】

本アンケートを返信していただくに当たり、貴プロジェクトの案内やチラシ、報告書等でお送りいただけのものがありましたら同封いただき、ご返信をお願いいたします。

— ご協力ありがとうございました —

あしがき

◎アンケート調査の実施については、下記ワーキンググループにおいて実施しました。

あいち産業科学技術総合センター
アクションプラン策定委員会

ものづくりイノベーション創出ワーキンググループ 構成員

	氏名	所属	職名
(リーダー)	室田 修男	あいち産業科学技術総合センター	副所長 兼 企画連携部長
(副リーダー)	柴山 政明	同	企画連携部 企画室長
	西村 美郎	同	共同研究支援部 計測分析室長
	北本 則行	同	産業技術センター 化学材料室長
	光松 正人	同	瀬戸窯業技術センター セラミックス技術室長
	中莖 秀夫	同	食品工業技術センター 保蔵包装技術室長
	中川 幸臣	愛知県産業労働部産業科学技術課	課長補佐
(事務局)	太田 幸伸	あいち産業科学技術総合センター	企画連携部 企画室 主任研究員

イノベーション創出に向けた産業クラスター・
プロジェクトに関する先進事例調査報告書

平成27年8月発行

あいち産業科学技術総合センター
(アクションプラン策定委員会)

豊田市八草町秋合 1267-1

電話 (0561)-76-8302

FAX (0561)-76-8304

<http://www.aichi-inst.jp/>